

幼稚園児が異なった文化環境に 適応する過程の記録

柏木 恵子

これは日本人の両親とともに米国にいき、言語も風習も異なる米国の幼稚園に入園した、日本の一幼児が、異なった文化環境にどのようにして適応していくかを示す一記録である。

クリスマス休暇が
けると同時に（こちら
にきてから約十日目）
近くのラファム公立小
学校の附属幼稚園には
いる。この学校は、私
どもの住いから近い普
通の小学校で、大学の
スタッフの多く住んで
いる地域のように、外
国人や大学関係者の子
どもは特に多くなく、
むしろごくまれ。幼稚
部から六年まであわせ
ても、外国人はうちの
子のほか、中国人の双
生児とインド人の男の
子がいるくらい。した
がって、とても珍しい
存在となったが、変な

偏見や敵意に合うことは、まずないところであった。

子どもは六歳一か月だったから、本来のこちらの制度ではすでに九月から一年生にはいつている年齢だが、言語のハンディを考慮して、幼稚園に入れることにした。

息子は幼稚園に行くことに、ややちゅうちょを示し、必ずしもよろこんで行くとはしなかった。連れて行ってひとりおいて帰ろうとしたとき、何とも不安げななさげない顔をしていた。ただこの前日、近くの洗たくやで、たまたま一緒に、近く少しの間遊んだ子が、そのクラスになって少しの間遊んだ子が、そのクラスにいて、息子は千人の味方を持ったように感じたようす。この子は帰り道もずっと一緒だったし、またとても積極的で活発な子であったりして、その後ずっと親しい関係になる。

第一日目は、迎えにいったとき、先生

に聞くと、案じたように泣いたりせず、何とか一緒にやっていた由。本人は「みんながぼくの顔を見る」といい、珍しがられ、注目されることをしきりに意識している。

第二日目、「今日うちでぼく仕事があるんだ」とか「いそがしいんだ」とかいつて、幼稚園へ行かない予防線をしきりに張っている。「うちにいてもお友だちもないし、つまらないでしょ」と励ましてつれていく。帰りはいつてよかったと満足している。

その後はいやがらずにいくようになったが、一週間ほどは送り迎える。この頃はもちろん一語も英語は話せず、しかし、平気で日本語で話しかけたり、呼びかけたりしている。

一週間後からひとりで通園するようになる。近くの上級の男の子にたのんでみると、一緒に行ってくれ、本人もよろこ

んで一緒にいく。帰りは同じクラスの子と途中まで一緒に、あとはひとりで帰ってくる。

アルファベットに興味をもちだし、少しずつテキストを使って教える。三週間ぐらしかかり、大文字、小文字を学習し終わり、街の看板のスペルをしまいに読む。また、この頃から子ども向きテレビに興味をもつようになる。

幼稚園には元気でよろこんでいつていたが一方、その他の時間（幼稚園は一時〜三時三十分までの午後のクラスであった）は戸外がマイナス30度にもなる寒さのために、全く家の中にとぎされ、近くに行き来する友だちもないことから、ひとり遊び、父か母相手に遊ぶことを余儀なくされる。積木、ブロック、組立てなどのほか、日本にいるときには、あまり集中せず、長つづきしなかつた本に熱中する。読んでもらうこと、ひとりでたどったり眺めたりすること

にかなりの時間集中する。これは大きな変化だ。また絵をかくこともこれまででりずつと長時間するようになる。

一か月たった頃、先生にどんなふうになっているかたずねたところ、息子が、時時友だちをぶったり、つねったりするの、止めるよう、静かに遊ぶよう話してほしいと注意をいただき、仰天する。日本ではもつぱらぶたれる側だったのに、恐らくコミュニケーションの手段なく、どうやって自分のことを友だちに通じてよいか解らず、じれてやむなくぶったりしてしまふのだろうとふびんになる。

しかしともかく、ぶつたりつねつたりすることはよくないということをよく話してやり、やめることを約束する。日本ではおとなしいおよそ自分から攻撃的になることなどできない子だったのに、この変化にはおどろき、考えさせられる。

一方、英語はごくかんたんなものを少

しずつ覚えはじめ。Come on, Here me, Let's go などおもしろいことに、単語として覚えずに、いずれもこのようなフレーズとしてはいつている。

一週間のちに、先生に会うと、ぶつたりすることもなくなつたとのこと、覚えたフレーズをしきりに使つて、友だちと接触する。

その後一度だけ、だれかがいじめるから、一緒にいつてくれといった他は、幼稚園をいやがることは一度もなく、むしろその時間を待ちかねて一番にでかけていくほどである。

これは、

① 家でひとりあそびにあきて、友だちとの生活を渴望していること。

② 皆も親切だし、本人も年長であるため、日本でのようにやつつけられることもなくむしろ後位に立て、安定していることのためかと思う。

またここでは、小学校前段階として、簡単な算数のようなものをする（ワークブックのような紙で）のも楽しみらしい。時々日本の友だちはどうしているかなということはあるが、日本の幼稚園よりもよいと満足している。

こうしてその後四か月、順調にすごしているが、その間、気のつく点をあげると、
◎言語は次第に増えてきたこと、（聞き覚えて）また学習力は私どもと同じくらいあるらしい（テレビをみていて、「———といつている」とよく聞きとる）。さらにそれまでただ聞き覚えであつたのが、積極的に、こういうことは英語では何というの？とたずねるようになる。また英語の本を読んでもらうこと、そして覚えることも、しきりに楽しむ。つまり、ただ受身的の態度から、積極的な学習へ変わってきたようだ。
◎想像力、簡単な表現力がついたこと。テレビをみていても、ことは解らないので、

画面のはこびから、しきりに筋を自分で作り、想像しては楽しむことを（やむなく）するようになる。言葉が通じないための苦肉の策とはいへ、見方によっては、よい成長かと思う。

◎ひとり遊びの時間が、圧倒的に多いため、絵をかくことに集中する。これまでの乱暴な書き方、なげやりな絵はなくなり、丹念にこまかくかくようになる。これには、新奇なものが身近にたくさん生じて、これを画材にするようになったこともあろう。

先週、先生との面接があつて何うと、単語もフレーズもだいぶうまく使つていくこと。皆とよく協調してよく交わつていくこと。いつも元気で明るく楽しそうにしていることで、何の問題もないとの話であつた。

(在アメリカ)